

## 特定非営利活動法人 PandA-J セルフアドボカシー支援に向けた学習プログラムに関する取組



- ・障害のある人の権利擁護活動や就労支援活動を行い、広く暮らしやすい社会作りに寄与することを目的として2008年設立。障害者の権利擁護活動や就労・生活支援活動で活躍している大学研究者、弁護士、医師、教師、ジャーナリスト、障害福祉事業者、親など、学際的・実践的メンバーで構成されている。P(プロテクション) アンド A (アドボカシー)。
- ・全国各地にゆるやかな安全ネットや権利擁護ネットワークP&Aを立ち上げるとともに、権利擁護・成年後見情報誌「PandA-J」を発行し、市民や親や当事者に「わかりやすい情報提供」を行い、理解推進の基盤整備や障害者虐待防止法の啓発にも寄与した。
- ・「共生社会を創る愛の基金」との連携により、罪に問われる障害者の支援等に関する研究活動や、地域における多職種連携による危機介入支援ネットワークであるTS (トラブルシューター) 養成にも力を入れてきた。
- ・ケント大学G.Murphy教授やR.Rossiter博士、プリズンリフォームトラストのJ.Talbot氏らイギリスの研究者、実践家との共同研究に力を入れ、生きづらさを抱えた障害者のための性的問題行動からの離脱学習プログラム (SOTSEC-ID, Keep Safe) 開発にも取り組んでいる。



### 「セルフアドボカシー支援に向けたキャリア教育と地域包括支援プログラム」の構成と今年度の成果

#### 【学習プログラムの運営方法】

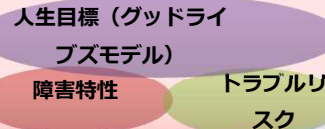
**【地域で暮らす本人が、自分で自分を守るための学習機会—トラブルや犯罪に巻き込まれないための「暮らしのルールブック」普及と当事者グループワークの実施】**

- ・PandA-Jが、障害者雇用企業支援協会等と協力して作成した「暮らしのルールブック」(社会福祉法人南高愛隣会/共生社会を創る愛の基金) 活用による当事者グループワークを実施するためのセミナーを、新潟TS、多摩TS、沖縄TS、石狩TSにて実施。
- ・新潟TS、石狩TSでは当事者によるグループワークを行い、今後の課題を検討した。

#### 【Keep Safe(ySOTSEC-ID)プログラムの実施】

- ・トラブル等から離脱するためにじっくり学ぶ本人講座。ケント大学R.Rossiter博士との共同研究によるプログラムを各地で実施していく。基盤整備として、多職種連携により専門性のある支援者養成を進めた。東京多摩TS、盛岡TS、仙台TS、名古屋児童相談所にて実施する。

#### 【目指す人生目標と障害特性、リスクに応じた介入の必要性】



#### 【多様なセルフアドボカシー支援を目指して】

##### 【SOTSEC-IDの検証と実施準備】

- ・全国2地域で実施した成果と課題を検証し、リスクアセスメント方法の精緻化と地域における実施体制を確立する。特に発達障害者支援センター、基幹相談支援センター、地域生活定着支援センター、社会教育機関などとの連携により、多職種連携のトラブル・シューター・ファイシリテーター養成講座を全国で展開していく。
- ・当事者のグッドライフ設定や年齢、リスクに応じてySOTSEC-ID (Keep Safe) との選択判断を見極める

#### 【関係機関・団体との連携等実施基盤整備と

**事務局体制の確立】**・既存の各地にあるトラブル・シューター・ネットワークとともに本プログラムの実施を推進するとともに、国立障害者リハビリテーションセンター発達障害情報・支援センター等の協力を得て、発達障害者支援センターや地域基幹相談支援センターをベースにした実施基盤整備に着手した。・全国縦断的な連携協議会の発足に向けて、事業全体を調整し推進する事務局を確立した。またプログラム開発委員会を組織し、ニーズに応じたプログラムづくりに着手した。